

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成24年10月4日(2012.10.4)

【公開番号】特開2012-52284(P2012-52284A)

【公開日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【年通号数】公開・登録公報2012-011

【出願番号】特願2011-246787(P2011-246787)

【国際特許分類】

A 4 1 D 19/04 (2006.01)

A 4 1 D 19/00 (2006.01)

【F I】

A 4 1 D 19/04 B

A 4 1 D 19/00 P

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月20日(2012.8.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

消毒剤又は付臭剤を含むエラストマー性手袋の製造方法であって、

手袋の型の表面を、カルシウムイオン濃度が約 3 重量%ないし約 5 重量%の凝固剤溶液及び離型剤でコーティングするステップと、

前記凝固剤溶液及び離型剤でコーティングされた前記型を部分的に乾燥させるステップと、

前記部分的に乾燥させた型を、約 12 重量%ないし約 20 重量%のラテックス固形分を有するニトリルブタジエンゴムラテックス・エマルジョン中に約 7 秒間ないし約 15 秒間のドウェル時間浸漬して、前記型の表面上に凝固ニトリルブタジエンゴムラテックス層を形成するステップと、

前記ニトリルブタジエンゴムラテックス・エマルジョン中から前記型を取り出すステップと、

前記凝固ニトリルブタジエンゴムラテックス層を有する前記型を水槽に浸漬してカルシウムイオンを除去した後、前記凝固ニトリルブタジエンゴムラテックス層を乾燥させて前記型の表面上に手袋本体部を形成するステップと、

消毒剤又は付臭剤を含ませる前記手袋本体部の外面が前記手袋本体部の内面になるように、前記手袋本体部を前記型から反転離型させるステップと、

反転した前記手袋本体部に前記消毒剤又は付臭剤を加えるステップとを含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の方法であって、

前記反転離型させるステップの前に、消毒剤又は付臭剤を前記手袋本体部に加えるステップを更に含むことを特徴とする方法。

【請求項 3】

消毒剤又は付臭剤を含むエラストマー性手袋の製造方法であって、

手袋の型の表面を、カルシウムイオン濃度が約 3 重量%ないし約 5 重量%の凝固剤溶液及び離型剤でコーティングするステップと、

前記凝固剤溶液及び離型剤でコーティングされた前記型を部分的に乾燥させるステップと、

前記部分的に乾燥させた型を、約 12 重量%ないし約 20 重量%のラテックス固形分を有するニトリルブタジエンゴムラテックス・エマルジョン中に約 7 秒間ないし約 15 秒間のドウェル時間浸漬して、前記型の表面上に凝固ニトリルブタジエンゴムラテックス層を形成するステップと、

前記ニトリルブタジエンゴムラテックス・エマルジョン中から前記型を取り出すステップと、

前記凝固ニトリルブタジエンゴムラテックス層を有する前記型を水槽に浸漬してカルシウムイオンを除去した後、前記凝固ニトリルブタジエンゴムラテックス層を乾燥させて前記型の表面上に手袋本体部を形成するステップと、

前記手袋本体部を有する前記型を塩素槽に浸漬して、前記型の表面上に形成された前記手袋本体部の外面を塩素処理するステップと、

前記手袋本体部の前記塩素処理された外面が前記手袋の内面になるように、前記手袋本体部を前記型から反転離型させるステップと、

反転した前記手袋本体部に消毒剤又は付臭剤を加えるステップとを含むことを特徴とする方法。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の方法であって、

前記反転離型させるステップの前に、消毒剤又は付臭剤を前記手袋本体部に加えるステップを更に含むことを特徴とする方法。

【請求項 5】

エラストマー性手袋であって、

ニトリルブタジエンゴムラテックスから形成されたエラストマー性ニトリルブタジエンゴムの柔軟性層を含み、かつ手袋の着用面をなす塩素処理された第 1 の面及び手袋の把持面をなす塩素処理されていない第 2 の面を有する手袋本体部と、

前記塩素処理されていない第 2 の面上に実質的に均一に分布している離型剤とを含んでおり、

(a) 前記手袋本体部の手の平領域の平均厚さが 0.03 mm ないし 0.12 mm であり、

(b) 前記手袋本体部の前記塩素処理されていない第 2 の面が、光学画像分析で測定して、約 800 孔/mm² 以上の孔密度を有し、かつ

(c) ASTM D 5151-06 に従ってピンホール試験を行った際に約 1% 未満の不良率を有し、

消毒剤または付臭剤が前記孔の中に貯留されて徐々に放出されることを特徴とするエラストマー性手袋。

【請求項 6】

エラストマー性手袋であって、

ニトリルブタジエンゴムラテックスから形成されたエラストマー性ニトリルブタジエンゴムの柔軟性層を含み、かつ手袋の着用面をなす塩素処理された第 1 の面及び手袋の把持面をなす塩素処理されていない第 2 の面を有する手袋本体部と、

前記塩素処理されていない第 2 の面上に実質的に均一に分布している離型剤とを含んでおり、

(a) 前記手袋本体部の手の平領域の平均厚さが約 0.05 mm ないし 0.07 mm であり、

(b) 平均水蒸気透過率 (WVTR) が 315 g/m²/日ないし 430 g/m²/日であり、かつ

(c) ASTM D 5151-06 に従ってピンホール試験を行った際に約 1% 未満の不良率を有することを特徴とするエラストマー性手袋。

【請求項 7】

請求項 6 に記載のエラストマー性手袋であって、
前記平均水蒸気透過率（WVTR）が $317 \text{ g/m}^2/\text{日}$ ないし $345 \text{ g/m}^2/\text{日}$ であることを特徴とするエラストマー性手袋。

【請求項 8】

請求項 6 又は 7 に記載のエラストマー性手袋であって、
前記手袋本体部の手の平領域の平均厚さが 0.05 mm であることを特徴とするエラストマー性手袋。